



414
A 772
5



外報摘要第十九回目次

一 土耳其改革論

右

明治三十年八月九日脱稿

大正十一年四月
隈侯爵郵寄贈

五十一

土耳其改革論

記者曰 本論ハ一土耳其人某ノ名ヲ以テ本年六月
月茂兌隔週評論ニ掲ケシモノ其果ニテ土耳其人
某ノ手ニ成リシヤ否ハ暫ラク措キ之ヲ精讀スル
ニ頗ル肯綮ヲ得タルモノアリ記者即其餘レルヲ
省キ是ヲサルヲ補ヒ茲ニ之ヲ載出シヌ

土耳其改革ヲ云為スル者ノ言ニ聞カハ異口同音財
政整理ヲ以テ唯一トシ未タ必スシモ人種問題ヲ切
要トシ之レヨリ論及スルモノアルナシ予ハ固ヨリ
財政整理ノ改革ニ必須タルヲ認メサルニアテサル

モ寧ろ之ヲ完フセシニハ宗教的改革即人種問題ノ
劃切タルヲ覺ユルモ人予カ本論ニ於テ回々教徒ト
非回々教徒相對ノ地位ハ近代顯著ノ革新家「マーモ
」ドニ由リ改革紀元ニ際シ如何ナリニヤヲ誓查シ、
當時那邊ノ事ヲ企圖セシヤ其梗概ヲ討究シ且之々
為メニ回々非回々二教徒ハ如何ノ影響ヲ蒙リシ乎
ヲ穿鑿シ更ニ進ニテ既往ニ於ケル改革失敗ノ諸原
因ヲ考覈シ、最後ニ真正ニシテ不抜ナル改革ヲ遂行
スルノ方法ヲ断定セントスルモノ畢竟之カ為メノ
ミ、乞フ左ニ歴史的ニ叙述セン

抑土耳其ニハ古来「」ノ法則ナルモノ存
シ之ニ則ル中ハ回々教徒ノ法定上ノ地理ハ二部ニ
分割セラル、所謂宗領及ヒ軍領ト稱スルモノ是レナ
リ、而シテ非回々教徒ハ二者孰レニモ各自ノ好ムニ
從ヒ住居シ得ルモ權義ノ差素ヨリ回々教徒ト同一
ノ談ニアラス、即宗領ニ往スル者ニアツテハ先ツ改
宗服従共ニ回々教徒ノ利益ノ為ニシ且課定ノ租稅ヲ
支拂ハサルヘカラス、之レト等シク軍領ニ居スルモ
モハ「」ト稱セラレ苛刻ナル軍規ニ支配セラレ
君ニ身作、名譽、財産ノ保護ヲ欲シ宗領ニ赴カントセ

ハ勿論任意ニ為シ得ルモ、而モ同時ニ「マスタミ」ニ
地位ヲ占メ其後一ヶ年以上滞在シテ僅ニ「ゴム」ニ
資格ヲ得ルニ過キス、所謂「ゴム」トハ准信仰者ノ義
ニシテ單ニ所属信仰者長ノ臣隷タルノミナラス又
「イマム」ノ臣隷タリ而シテ其權利如何ト問ハ、笑フヘ
キモノ一モアルナシ、之ヲ摘言セハ即回々教徒ハ非
回々教徒ヲ輕視シ之ヲシテ常ニ課税ノ苦ヲ嘗メシ
メ尚且ラストシ衣服、家屋ノ築造、武器携帯、法寺總
テ區別ヲ設ケ以テ之ヲ侮蔑セリ、是レ豈宗教ノ開祖
モハメツトノ精神ニヤランヤ、蓋シ渠ハ「ゴム」ニハ

不ツトニ從ヒ專ラ人類ノ平等、宗教ハ神人間ニ
於ケル一物タルヲ及人間ノ濟度ハ其人自身ニ屬ス
ルヲ等ヲ主張シタレハナリ、然レトモ之レヲ「マ」ノ
法則トシテ回々教徒ノ非回々教徒ニ對スル典型タ
リシヲ奈何セン
宗教上ニ於ケル非回々教徒ノ地位既ニ然リ、更ニ上
帝ノ下ニ於ケル渠等カ國法上ノ權義如何ト見ハ轉
然タルモノアリ、即土耳其戰勝ノ結果「アナトリア」
及「ル」メリ「非回々教徒多教住居ノ地」リノ地ハ
悉ク之ヲ教箇ノ未地ニ分割シ其一端ヲ土帝ノ有ト
シ他ハ探頭(地頭)及宰相(宰相)ニ賦與セリ之レ非回々教徒

ヲミテ浮浪ノ民々ヲシメシニ外ナラス。後亞刺比亞
征服ニ當リ渠等ハ嚴重ニ定メラレタル租税ヲ支拂
ヒ漸ク安全ニ土地ヲ所有スルニ至リシモ是又一瞬
ノ間ノミ、他ナシ渠等ハ土耳其征服ト共ニ卒フニテ
得タル土地所有権ヲ失ヒ再ヒ藩地領主ノ干係ヲ生
シ奴僕ノ旧状ニ陥リタレハナリ、而モ之レ尚怒ムヘ
シ、軍リ渠等ノ爲ニ怒フヘカラサルハ「メ」トツトニ
由ノ侮辱的寛免ニテ、侮辱的寛免トハ何ソ、曰ク基
督教會長希臘教長ヲシテ回々教ノ法律ニヨリ決定
セラル、金錢上ノ推義ヲ除キ教育道義其他又事ニ

リ

関スル諸般ノ事項ヲ處理セシメシノ謂ニシテ、一見
渠等ハ之ヲ爲メニ自由ヲ得シカ如キモ實ハ然ラズ、
全ク「メ」トツトノ爲メニ賣ラレシモノニシテ其局
渠等ハ回々教徒ト婚儀ヲ禁セラレ、被征服者トシテ
人類以外ニ置カル、ニ至レリ
事情斯ノ如シ生アルモノ誰レカ永ク之ニ堪ヘンヤ
宜哉土耳其ノ治ラサル年久シキ
國家ノ重キヲ双肩ニ負ヘル土帝ニシテ社稷ノ健全
ヲ眼中ニ置カスニハ即止ム、倘夫レ否ラズニハ何人
カ之ヲ改善ノ要ヲ感セカラン、果シテセリムニ三世

स्ताフア四色ノ如キ屋ニ茲ニ意ヲ注キシモ共ニ意
ニ伴フノ行ナク空シク時日ヲ消ニス、後「マ」モ「ド」
二世英邁ノ資ヲ以テ襲フニ当リ銳意熱心大改革案
ヲ樹テ之ヲ決行セントセリ、其財政ヲ整理シ軍隊ヲ
改善シ探題ノ抑壓ヲ禁シ非回々教徒ヲ懲撫シ元老
回議ヲ不能ニ帰セシメ大臣ノ責任ヲ明ニシ王庭ヲ
嚴然時立セシメシ等ハ蓋シ渠カ勲功ノ大ナルモ
ト云ハサルヘカラス、然レトモ臣ニ大ナルモ「即根
本的改革ニ至リテハ執迷頑愚厭クナキ回々教徒等
ノ反抗ノ為メニ果ス能ハサリシ

其後千八百三十九年「ア」ブ「ダ」ル「メ」ヂ「ツ」ド「九」五「ノ」位ニ
即クヤ先帝ノ志ヲ嗣キ「ロ」ス「チ」ツ「ド」バ「シ」ヤ「ノ」献替ニ
應ニ十一月三日ヲ以テ「ゲ」ール「ク」ハ「ネ」(Gulshane)
ナル勅令ヲ公布セリ、抑該勅令ナルモノハ祖宗ノ遺
訓ニ則リ良政主義ニ胚胎セルモノニシテ其要臣民
ノ生命、名譽及財産ノ安固ヲ保証シ(一)臨時及常時ニ
於ケル租稅徵收法ヲ定メ(二)徵兵及其服役期限ニ對
スル方法ヲ劃定シ(三)之ヲ遵奉スルハ宗派教義ノ異
同ヲ論セズ土耳其臣民一般ノ義務ナリト云フニア
リ、次ヲ之ヲ実行セニ為メ新法ハ發布セラレ新制

度ハ創建セラレ陸軍組織帶制ノ改善アリシモ、無智
矇昧殆ント理解力ナキ民人ヨ對手トナスニアルヲ
以テ其効果ヲ收ムル頗ル難ク遂ニ四十五年ニ至リ
帝ヲシテ陸軍再組織ノ外一トシテ改革ノ實ナキヲ
歎セシムルニ至リ又、然レトモ渠ハ一蹶一跌ヲ以テ
容易ニ初志ヲ變スルモノニアラス益進ニテ之ヲ遂
行セント期シ、謂ヘテク改革ノ徹底セサルハ宗教及
人民ノ無智ニ職由スト、即渠ハ普通教育ノ制度ヲ設
立シ徐ク目的ヲ達セントセリ、而モ惜哉、事申道ニ
シテ一大妨害ニ遇ヒ其結果ヲ見ル能ハサルニ畢ン

又、惟フニ此等妨害ニミテ生セサレニカ恐ラクハ左
ノ諸改善ヲナヒシナラン、曰ク專制的沒收及處刑ノ
廢止、不法且苛酷ノ拷問禁止、封建制度ノ廢滅、奴隸賣
買ノ禁制、其他司法制度就中、証方法ノ改良(従来裁
判ニ口証ノミヲ許セシカ書証ヲモ許ス)及回々非
回々ノ區別ヲ棄テ二者共ニ均等ノ証據力ヲ有セシ
ムル)等見レナリ
所謂一大妨害トハ何ソ即チヤ戦争ノ養ニシテ、
之レカ為ノ民人ハ將校士卒ノ腐敗不謹慎ヲ認メ改
革ノ名實副ハサルヲ覺リ、漸ク動キ初メシト共ニ外

國ノ容喙ヲ招キ、止ムナク「ハツキ」ヒエマヨシナル
改革勅令ヲ裁シ、僅カニ内外ノ紛紜ヲ解キシモ、其改
革安ノ空文タルハ依然昨ノ如ク偶アリ「パ」ヤ、
エ「ド」バ「シ」ヤニ宰相ノ斡旋盡碎スルアリ「シ」モ到底
其功ナク、財政ハ紊亂ニ秩序頽廢ニ凡紀地ニ墮キ徒
ニ増大スルハ唯夫皇帝ノ擅制權ノ「シ」ナルヲ以テ、基
督教徒ハ「シ」フ迄モナク回々教徒モ激動ニ「シ」マス、
終ニ千八百五十九年ヲ以テ回々教徒ノ大暴動ヲ見
ルニ至リ、國家ハ之ヲ鎮壓スルノ急ニ迫リ又、於茲年
列強黙視スルニ忍ヒス今日ノ如ク種々雜多ノ改革

ヲ申述ミシモ未タ其結果ヲ見サルニ、「レ」バ「シ」問題
「ル」ツ「ゴ」ウ「イ」ナ「ノ」一揆「ボ」ル「ガ」リ「ヤ」人「ト」希臘教會間
ノ葛藤等纏綿相接キ何事ヲモ為スナク「シ」テ「メ」チ「ツ」
ドハ退位スルニ在リ、千八百六十一年六月「ア」ブ「ダ」
ル「ア」ヂ「ツ」帝位ヲ踐ムニ迄キ基督教徒ハ之ヲ敬慕ス
ルト共ニ「ハ」ツ「チ」ヒ「エ」マ「ヨ」シ勅令実行ノ請願書ヲ
提出セリ、之カ結果カ幾干モナク「シ」テ「ゲ」イ「レ」シ「法」
ハ裁布セラレタリ是レ即自治法ニシテ回々教徒々
ルト非回々教徒タルトヲ問ハス等ニク沐浴スルキ
自治制度タリニナリ、然レトモ是又架空ノ約束ニシ

テ其實國家ノ全權ヲ更ニ多ク帝ノ手中ニ措クニ過
キサリキ、何トナレハ自治ノ主宰タル地方自治主ハ
官選ニシテ犯ス可カラサル權力ヲ有スルニ加フル
ニ自治機關ノ骨子タル會議員ハ悉ク官選ニ出テ刺
一常ニ回々教徒ノ獨占スル所タレハナリ
改革案ノ續出輸送如汗モ帝ナラス而モ目的ヲ達ス
ルナシ、今ニシテ之ヲ放棄センカ結局無政府ノ態ニ
陥ルヲ免レス如カス干涉以テ之ヲ救済センニト即
列強ハ互ニ協商ヲ重ネリ、ハツキ、勅令ヲ公平正
確ニ解釈ニアリ、及フエード等ノ意見ヲ贊シ教派
子

ノ異同ニ別ナク主耳其臣民ヲ同權ノ下ニ立タシム
ヘシトハ、佛國ノ持論ニシテ英國ノ贊スル所、地方自
治ト共ニ異人種ヲ分離セントハ、露、墺ノ主張スル所
ナリシ、然ルニ佛英ノ意見行ハレシヲ以テ回々基督
ニ教徒共同ノガヲタセラシ教育制度(現主帝之ヲ廢
止セシマテ好結果ヲ奏セリ)制定セラレ次ニ千八百
六十八年佛國內閣會議ニ髣髴タル國家會議及控訴
院大審院ノ外ニ回々基督ニ教徒ヨリ成レル高等法
院ノ創設アリ延イテ各州ノ裁判制度ニモ訣混合制
ヲ布クノ計畫就ルニ至レリ、後五月開會ノ國家會議

ニ於テ土帝ハ土耳其君主ノ未タ嘗テ口ニセサル底
ノ寛裕ナル勅語ヲ与ヘセ^レクハルイスレム^レ回々教
ノ主宰長^ニヲ始メ各教長及重ナル商人等ヨリ非常
ノ感動賞讃謝恩追從ヲ稟ケニキ然レトモ是レ渠カ
内外ヲ懣着スルノ手段タリニナリ果シテ渠ハ「ア
ドパ^レコ^レヤト絶交^シ之ヲシテ國ヲ去ラシメ「ミッド
ハットパ^レコ^レヤヲバグダツトニ放逐セリ改革派ノニ
相既ニ去ル残ルハ唯一ノ「アリ^レパ^レコ^レヤアルノミ「ア
リ^レ固ヨリ改革ニ志アルモ單行獨立帝ニ迫リテ
ラ実行スルノ勇アルニアラス寧ロ一身ノ榮耀ニ汲

々タル如輩ノミ佛英ノ後援ナク同僚ノ勸誘ナク
ハ能ク何事ヲカ為シ得ン而シテ土帝改革ノ真意ハ
保護者ヲ以テ任スル佛英内閣ヲ憚リ之カ強迫ヲ避
ケン為メ言譯的ニナスニ過キス知ル可シ土耳其改
革ノ望ナキヲ

土耳其改革ノ機運ハ疾ク逝キ又特ニ普佛戰爭ノ結
果ハ土帝ヲシテ佛國ニ對スル輕侮心ヲ増大セシメ
英國ヲシテ又單獨盡スニ意ナカラシメ加フルニ「ア
リ^レパ^レコ^レヤノ死ヲ以テセシカハ土帝ハ愈專横ヲ極
メリ而シテ怪イカナ回々教徒ノ輿論ハ之ヲ咎ムルア

ルナシ、偶先ニ追放セラレタルミッドハットバシヤ
ノ帰國スルアリテ民法編纂ヲ帝ニ強イ其業緒ニ就
キシモ、之レ素ヨリ九牛ノ一毛ノミ、帝ハ益誤樂淫佚
ニ流レ敢テ國務ヲ省ニス、財政ハ非常ノ苦境ニ沈ミ
豫算ノ欠乏ヲ補フ為メ公債ニ續クニ公債ヲ以テ之、
所在到ル處ニ盜竊姦淫ノ聲甚ク膏敗ノ氣國內ニ充
満スルニ至レリ、既ニシテバルガリヤ、ボスニヤ、及ヒ
ヘルツゴダイナノ紛亂生ジセルガイヤ、モンテネガ
ロノ強迫起リ次クニバルガリヤノ虐殺ヲ以テセリ、
是皆英國ノ嫌忌ヲ招ク所ニシテ露國ノ利スル所而

モ土帝ノ舉措ヤ革マルナシ、形勢斯ノ如クナルヲ以
テ相臣及回々教徒等モ漸ク帝ニ背キ遂ニ廢陟ノ止
ムヘカヲサルニ到リヌ
其後ムテツドノ短期治世ヲ佐今帝ニ至リ改革ノ精
神ハ尚發揚セラレ千八百七十六年十二月二十三日
ヲ以テ「ミッドハット」ノ憲法ナルモノ發布セラレシ
モ、忽チニシテ死文枯法ト化シ又其實ヲ暗ル能ハサ
リシ、左レハ廢世土帝ノ苦心セシ改革ノ結果トシテ
計テヘキハ僅ニ新但俄ノ陸軍民法ノ編纂及地方自
治制ノ三種ノミ、而モ此等皆名實相違ノニアラズ唯

形式的ニ其結果トシテ牽ケルニ足ルノコ
然ラハ即改革ノ結果ハ回々非回々ニ教徒ニ何等ノ
影響ヲ波及セザリシカ、曰ク否得シハ基督教徒等ニ
ニテ失ヒシハ回々教徒ト云サレハカテ人、基督教徒
等非回々教徒ノ免モ角モ同權同政ノ下ニ立ツニ至
リシハ縱令改革ノ意ニ滿タサレモノアルニセヨ正
シク之カ結果タルト、同時ニ回々教徒等ノ幾多特權
ヲ剝奪セラレシモ亦之カ結果タリ、一ハ利ニ他ハ損
ニ、以テ還兩者間ニ人種的争闘ヲ見サラントスルモ豈
得ンヤ、況ンヤ兩者ノ漢條前日ニアツテ既ニ犬猿堂

ナラサレモノアルヲヤ、又況ンヤ非回々教徒ハ軍役
代税ノ特免ヲ有シ且各國公使領事ヲ介シテ王廷ニ
訴ヘ得ルニ及ビ、回々教徒ハ是等ノ援助アルナク只
僅ニ自ラ抑壓者ニ對シテ愁訴ニ得ルニ過キス就中
強迫的軍役ノ如キハ渠等ヲ煩悶セシムル甚ク深
ク怨ミシ所ナルヲヤ、詮ニ来レハ近年ニ至ルマテ着
手セシ改革ノ結果ハ唯夫レ回々非回々ニ教徒間ニ
閥黨ヲ設ケ國亂ヲ助長セシムルノ媒タリシト云フ
ヲ得ヘシ
改革ニ次クニ改革ヲ以テシ而シテ終ニ成效スルナ

三、抑是、何ニカ為メソヤ、他ナシト帝ノ意思全ク他動
的ニシテ其實、積習ノ擅制權ヲ放棄スルニ忍ビサル
ト、列強カ土耳其ハ到底内部ヨリ革メサルヘカラサ
ルノ注意ヲ欠キシニヨルノミ、果シテ然ラハ如何ノ
策ヲ以テ之ニ益ミ、得テ能ク其目的ヲ達ス可キヤ
左ニ卑見ヲ陳ヘン

教育制度ノ改良

國運ヲ改善進歩スルノ道多岐アリト雖モ人智啓蒙
ニ如クモノナク人智啓蒙ノ道又教育ニ如クモノナ
シ、故ニ苟モ國政ノ改善ヲ圖ラニハ必スヤ先ツ教

育制度ヲ刷新セサルヘカラス、土耳其ノ如キニアリ
テ特ニ然リトス、而モ渠ノ現状ニ查サハ感慨轉々何
似

家庭教育、文明國ニアリテハ家庭教育ノ人物養成
國運進歩ニ價值ヲ有スル頗ル大ナルモノアルモ、土
耳其ニアリテハ此事ヤ到底望ムヘキニアラス、小兒
ヲ愛撫シ保護シ監督シ之ニ公德道義ヲ訓ユヘキ婦
人ニシテ教育ナク思想ナキ為メ却テ渠等ヲ誘惑シ
渠等ヲ屈伏セシメシメ益惡習ニ染マシムルヲ以テ
得タリトシ、加フルニ其家長タル男子ハ卑劣猥行就

中泥醉其淫ヲ事トシ毫モ士女薰育ニ省ミルナシ、而
コテ此等ノ事ヤ終令永ク土耳其ニ往シ土人ノ生活
ニ入りシ外人ヲ以テスルモ尚且端倪スヘカラサル
モノアリ、故ニ渠等ヲ以テ聞ナシメハ治ント怪疑ニ
堪ユヘカラサラシムルモノアリト雖モ事實ハ寧ロ
其シキモノアルヲ如何セン
学校教育、学校教育ニ於テ最必要ナルハ教課書ノ
良否ニアリ、然ルニ其重モナル文學書ヲ見ハ悉ク醜
陋汚藝ノ叙詩若クハ散文ニアラサルナク、真ニ讀者
ヲ以テ播クニ堪ヘサラシムルモノ多ク、歴史、心理学

ニ関スル書類亦然ラリルナシ、将来有為ノ國材タル
青年ヲ教育スルニ此種ノ文學ヲ以テシ而モ恬トシ
テ耻ツルナシ、豈真正ノ愛國者公德者ヲ校堂ニ需メ
得可ケン土耳其ノ亂ル、所以強々異ムヲ須サシ
社會教育、家庭学校ノ二教門既ニ然リ轉ニテ社會
教育ヲ觀察セシム亦長大息セシムハアラス、土耳其
ニ於テハ社會ノ耳目タル新聞紙ト程ス可キモノ一
モアルナシ、尙モ首都君斯坦丁堡ニ裁判セラル、モ
ノアルモ名アリテ實ナク各州ニ下リテハ名實共ニ
斯カルモノナシ、勿論地方廳ニ裁判スル官報アリト

雖も、單に官府の引札に依りて國ヨリ交通機關の所經
タルに是ラズ、時ニ結社集會ノ如キ社交上ノ機關ハ
總テ嚴禁セラル、ヲ以テ土人ハ恰モ密室監禁ニ於
ケル個人ノ如ク社会上ノ智識ヲ得ル能ハサルノミ
ナラズ、又健全ヲ助クルノ誤集ヲ重ル能ハシ、憐ム
キハ土人其ノ社交ナラズヤ
惟テニ土人其帝國改善ニ必須タル教育ノ状態ニシ
テ夫レ斯ノ如シ、其社会ニ制裁ナク、民人ニ徳義心ヲ
ク愛國ノ節操ナク、裁判ニ公平ナク、官吏ニ秩序ナク、
土帝ニ一篇ノ慈心ナキ敢テ發クニ是ラニ、蓋シ土人

ニ向ヒ道德ノ厚理如何ト問ハ、渠ハ必ス曰ハシ、回
々教徒タルハ正ニシテ非回々教徒タルハ不正ナリ
ト、是レ予カ教育制度改良ヲ以テ土人其改革ノ唯一
ニ措ク所以ナリ

土帝ノ專權剥奪

教育制度ノ改良ニ次キテ改善スヘキハ土人其帝ノ
專制權剥奪ニアリ、既往幾世紀間土人其改革ノ發達
及遂行ノ障壁タリシハ實ニ專權ノ然ラシムル所タ
リシナリ、彼改革家ノ名ヲ得タル「モーモード」ヲ首ト
シ「アバダル」メ「ゲツド」「アバダル」ア「シ」
「アバダル」ハ

ツドヲ以テシテ改革ノ切ヲ收メ得サリニモノハ、第一各自勇氣ト宰相信任ノ缺乏第二孱弱ト奥定見ノ致ス所ナリト雖モ、又因習ノ久シキ土廷ト專權トノ關係、蟠根ニテ病毒ヲナスニ歸セスンハアラズ、英國ニ於テ君主ハ宗教ノ長及國家ノ元首タルト等シク土耳其帝ハ又一方ニ於テハ回々教主ニシテ他方ニ於テハ土耳其國民ノ統領タリ、一身ヲ以テ二者ヲ兼示而モ、弊害ナキハ近ク英國ニ徵スヘキアルヲ以テ絶對的ニ非議スヘカラリルモ、之ヲ文明ノ程度國情ニ大差アル土耳其ニ望ムヘキニアラズ、皇帝ノ專權

ハ遠ク單一ノ土耳其帝タリシ時代ニ惹シ回々教主ヲ兼不_レシ時々生長セリ、野垂_レ矇昧ノ君主ニ二權ヲ係有_レシム、廢虐ヲ逞_レセシメワラントムルニ豈得ンヤ、宣武改革ノ都度却テ退步ヲ導クヲ、然ラハ即如何ニシテ改革ヲ完_レニ得_レキ革命ノ廢位カ、曰ク否宜シク政教ヲ分離シ更ニ國民教育、高等法術及財政高等會議等ノ制度ヲ組織シ君民ノ權議ヲ憲法上ニ劃定シ而テ後始メテ目的ヲ達スルヲ得ン

國民政治思想ノ喚起

回々教徒ト云ヒ非回々教徒(基督教徒等)ト云フ其本

スル處ノ教義宗派ノ異ナルニモ、士其國民タル
ニ於テハ國ヨリ軒輊アルナシ、而シテ怪我士其國民
タル非回々教徒ノ精神ヲ公拆シハ愛國ノ感念ナク
治モ無釋ノ外人タルカ如シ、是レ畢竟政權ノ配分當
ヲ得ナルニ坐スルノ罪ノミ、今ニシテ之ヲ刷新セム
ンハ國家ノ危險之ヨリ益感迫セン、然ラハ如何ニシ
テ之ヲ救済シ得ヘキ、即國民ヲ奉ケテ人種宗教ノ別
ナク軍旗ニ事ヘシメ、止ムヲ得ケル事情アル者ニ限
リ代積免除ノ方ヲ設ケ、國立本校及國家政務ノ組織
ニ高等行政々務委員ヲ設ケ其委員タルノ權ヲ平等

ニ配置シ其得喪ヲ自由競争ノ結果ニ一任シ以テ國
民全体ヲシテ政務ニ參與セシメ國家ニ對スル責任
ヲ覺知セシムルニ加クナシ、若シ夫レ斯ノ如クシテ
愛國心ヲ發揮スルナカラシムカ予又何ヲ力去ハン

裁判制度ノ改善

國民ノ良心即惡ハ善ニ勝タズ不正直ハ正直ニ敗ル
トノ感念ヲ喚起スルハ裁判ノ公平ヲ維持スルニ
、然レトモ此事タル今ノ制度ニ見得ヘカラス即士帝ノ
以テ須ラク現制度ヲ洗滌セサルヘカラス即士帝ノ
選任ニ目歐洲列強ノ贊同ニタル歐洲第一流ノ法律

家ヲ舉ケ之ニ土耳其法學者ヲ加ヘタル最高法衙ヲ
設置セサルヘカラス、該法衙ニハ民刑及行政上ニ於
ケル總テノ裁判權ヲ与ヘ又出版及政治上ニ関スル
犯罪管轄權ヲモ附屬ヒシメ悉ク之ヲ終審トシ、其合
議ハ土帝ノ意思ヲ以テ冒スヘカラサルモノトシ且
判官ノ地位ヲ獨立セシメ法律若クハ公道ニ及シ法
衙ノ判決ニヨルニアラスニハ罷免セラル、コトナ
シトスヘシ、而シテ亦該法衙ヲシテ行政權ヲ侵害セ
シメサルハ勿論ナリト雖モ、而モ之ニ法律上行政各
部ノ監督權ヲ与ヘ換事ヲシテ其職務ヲ執行ヒシム

ヘシ、尤モ裁判手續ハ公平ヲ保チ之ヲ公開シ其始末
ハ官報ヲ以テ之ヲ廣告シ普ク人民ヲシテ知悉セシ
ムルヲ要ス、幸茲ニ到ラハ度後ハ官吏ノ專横ヲ禁シ
人民ノ思想ヲ一變ニ改革ノ精神ヲ完フスルヲ得ン
カ
出版集會結社ヲ自由ニスル
彼名譽ニ對スル罪及公益治安ヲ害スル制戈ハ之ヲ
法律ノ規定ニ任シ先ツ出版ノ嚴禁ヲ解キ公益ニ干
スル尙題ハ其種類性質ノ如何ニ拘ハラヌ自由ニ論
議セシメ、次ニ從來存スル検閱官ナルモノヲ廢シ船

系ノ書籍新聞雜誌ノ類ハ、門戸ヲ開放シテ閱讀セシ
メ、史ニ公衆合及社交ニ干スル終テノ暴政的的鍵
ヲ破棄シ、以テ民人ノ誤集智識上ノ交換ヲ獎勵ス
ニ、開拓ニ要スル武器ヲ授ケスニ、開拓ヲ苛責ス抑
又無理ナラスヤ

財政ノ革新

最後ニ論スヘキハ財政問題ナリ、正確ナル豫美案ノ
編成、冗費削減、皇室費及軍費ノ制限、豫美超過ヲ防ク
各自責任ノ実行、公債保管ニ對スル熱心ナル正実及
注意、歳出入監督上ノ行政注意、公共事業ノ周到ナル

管理、農工業ノ發達及獎勵、宗教附屬ノ土地家屋ニ對
スル合理的改正、官吏俸給及規律ノ刷新、懲戒費用兩
規則ノ嚴肅情實ノ禁止、賄賂弊風ノ打破、凡ソ此等ノ
モノハ苟モ土耳其財政ヲ去為スルモノ、胸裡ニ出
没セン、然レトモ之ヲ救濟策々頗ル難シ、而モ予ハ謂
ヘラク公衆ノ良心ヲ一洗シ、正不正ノ感情ヲ代謝シ、
相当ナル司法制度ヲ設ケ、土帝ノ獨裁專制權ヲ掃蕩
シ、總テ改進ノ途ヲ杜絶スル弊風ヲ打破セハ未タ必
スシモ治シ難キニテラスト、今ヤ土耳其ハ國家ヲ舉
ゲテ病患ニ呻吟セリ、故ニ獨リ財政ヲ改革セントス

ルハ殆セント頭痛ノ為メ猩紅熱ニ悩メル者ヲ取扱フ
ノ如ク、根底ヨリ七ヲ容レスンハ癒シ能ハサル言フ
候クスト雖モ、一刀両断直ニ療治セズンハ官職ノ賣
買收賄汚行等日ト共ニ蔓延シテ再々快復ス可カラ
サルヲ如何セン、然ラハ如何ニシテ之ヲ改良シ得ル
日ク他ナシ、司法制度ニ於ケル最高法衙ト同一ナル
最高委員組織ノ下ニ財政ヲ監督整理スルニテ、其
委員ノ如キハ到底目下及近キ未来ニ於テ土人中ニ
得可カラサルヲ以テ歐洲人ニ仰クモ亦不可ナシ、唯
夫レ公平正義我土耳其ノ為メニカヲ致サンク予輩

土耳其民タルモノ誰レカ其外人タルヲ以テ從順感
謝ヲ吝マンヤ、要ハ速ニ最高財政委員ヲ組織シ之ヲ
整理シ之ヲ監督ヲ欲スルノニ
以上予ハ土耳其ノ改革ヲ切論セリ重複ノ嫌アルモ
更ニ之ヲ畧説セハ左ノ如シ
第一、暴力手段ニヨラス予カ以下列記スル憲法的
作用ニヨリ土帝ノ專制権ヲ打破ス可シ、然レトモ同
時ニ帝位ノ安固ヲ保証スル方法ヲ設ケ且政教ニ権ノ
分離ヲ新行スヘシ
第二、文武ノ官職ハ回々教徒ト否トテ同ハス專ラ

能否ニ則リ士帝ノ臣民ニハ均ニク職ノ權ヲ授ケ
且第四項ヲ以テ其職任ヲ保護スヘシ
第三、最高法衙ヲ設置シ其判官ノ多數ヲ政人トテ
ス、一、該法衙ハ土耳其行政全体ノ司法上監督ヲナス
一、官吏裁判特別規則ヲ廢止スル、地方自治制ヲ變
更スル
第四、高等行政々務委員ヲ設テ最高法衙ト其組織
ヲ同一ニシ、之ニ官職就任ニ干スル事項ヲ管理セシ
メ且土耳其教育ノ全般ヲ管理セシムヘシ
第五、自由出版ノ制ヲ立テ同時ニ寬大ナル出版規

則テ設ケル、一、検閲官ヲ廢シ外國新聞雜誌輸入及販
賣ノ禁ヲ解キ、同時ニ公衆會合及社交際ノ禁制ヲ
解ク、ト
第六、國家財政ノ新組織及管理ヲ最高法衙ト同一
組織ニシ、セル高等財政委員ニ一任スル、ト
第七、以上ノ組織ト共ニ予ハ次ノ事項ヲ加ヘント
ス、即諸列國ハ土耳其ノ為メニ改革ナル建物ノ基礎
ヲ置ク、ト、主張スル、唯基督教徒タル士國民ノ為
ニ改革ヲ請求スルヲ止ムル、及宗教人種ノ異同ニ
依ラズ主トシテ土耳其臣民ノ為メニ仲裁者トナリ

將後見人トナル
 論ニ去リ論ニ未リシモノハ所謂予ノ改革ノ提議ナ
 リ、予カ此提議ハ既ニ過渡ノ時代ニ屬セリ、然レトモ
 行ハントセハ又行ラ得ン、知ラズ我君臣及列強ハ
 予カ提議ヲ益ル、ヤ否ヤ、抑知ラス時ハ之ヲ決行ス
 ルヲ許ス可キヤ否ヤ、惟テニ露國ノ如クハ列強ノ強
 迫ニ屈伏スルノ外土耳其改革ヲ欲セサル可シ、嗚呼
 予ハ唯回教ノ條規ヲ三講セシム
 汝ノ世界ノ状態ヲ改善セシム為メ汝ハ汝ノ力ニ屬
 21

スル總テヲ為セ而シテ若シ失敗スルモ苦惱スル
 勿レト
 右

本年六月袁克隔週評論
 参照本年三月袁克許論・於ケル土耳其論

